

授業科目	＊看護倫理					実務家教員担当科目	○				
単位	1	履修	必修	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	幸 史子										
授業概要	看護職者は、看護学を基盤とする専門職で有り、専門職には基本的責務とそれを果たす義務が求められている。そのため我々看護職者に共通認識されている「看護職の倫理綱領」を持っている。授業では、看護倫理に関する基礎的知識、看護職者の直面する倫理的課題について概説する。さらに、さまざまな価値や信念に感受性・関心を深め、倫理的意思決定を行うための枠組みなどを活用して、看護・医療における倫理的課題への対応について、事例を通してグループでディスカッションしながら考えていく。 <div>担当者は、看護の実務経験を持つ教員により、看護実践の場でおこりうる具体的な倫理的課題や事例について概説する。</div>										
授業形態					授業方法	グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション Classroomを活用					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	1. 専門職として、看護倫理を学ぶ意義について説明できる。(DP1-1) 2. 看護専門職としての倫理的責任と倫理行動の原則が説明できる。(DP1-2) 3. 看護を実践する上で、人々の基本的人権を擁護するための手段と方法を説明できる。(DP1-2) 4. 看護者の倫理綱領を述べることができる。(DP1-2) 5. 看護実践における倫理的課題と対応について考えることができる。(DP4-1) 6. 事例をもとに、症例検討シートを用いた倫理的意思決定モデルに基づいて、倫理的課題の分析に取り組む事ができる。(DP1-2) 7. 倫理的課題に関する話し合いの場において、他人の意見に耳を傾けるとともに、自分の意見を述べる事ができる。(DP4-1)										
理想的レベル	看護倫理の必要性、倫理原則、看護職の倫理綱領を理解する。看護における倫理的課題と対応を考えることができる。倫理的課題の話し合いの場において、他人の意見に耳を傾けるとともに自分の意見を述べる事ができる。さらに、さまざまな倫理的課題をもつ事例への対応について、自主的に学習し、看護実践に繋げる。										
評価方法・評価割合											
評価方法			評価割合（数値）			備考					
試験			70%								
小テスト			0%								
レポート			20%								
発表（口頭、プレゼンテーション）			10%								
レポート外の提出物			0%								
その他			0%								
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	-	DP3	-	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	NU11202J
学習課題（予習・復習）										1 回の目安時間（時間）	
予習・復習:該当する部分の教科書や資料を読む。										4	

授業計画	
第 1 回	<p>テーマ：1. 授業概要の説明</p> <p>2. 看護倫理とは何か、①倫理についての基礎知識 ②法と道徳と倫理 ③なぜ私達は倫理を学ぶのか</p> <p>3. 倫理理論</p>
第 2 回	<p>テーマ：1. 生命倫理とは</p> <p>2. 性と生殖の生命倫理</p> <p>3. 死の生命倫理</p>
第 3 回	<p>テーマ：1. 先端医療と制度をめぐる生命倫理</p> <p>2. 看護倫理とは何か ①看護倫理の歴史 ②看護倫理の原則</p>
第 4 回	<p>テーマ：1. 専門職の倫理綱領 ①看護職の倫理綱領について概説する。</p> <p>2. 感染症と倫理的課題</p>
第 5 回	<p>テーマ：1. 研究倫理 ①研究における倫理的配慮の重要性</p>
第 6 回	<p>テーマ：1. 倫理的問題へのアプローチ ①倫理的問題へのアプローチの基本的な考え方</p>
第 7 回	<p>テーマ：1. 提示した事例を基に事例分析を行う。(グループワーク)</p>
第 8 回	<p>テーマ 1. グループワークの発表</p>
テキスト	<p>宮坂道夫他著：：系統看護学講座別巻 看護倫理、第 2 版、医学書院、2020 年</p>
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	<p>参考図書についてはその都度紹介し、教材については必要に応じて資料を配布します。</p>
課題に対するフィードバックの方法	<p>講義中に質問への回答や課題へのコメントを行う。また、classroom を活用して掲示する。</p>
学生へのメッセージ・コメント	<p>1 年次看護学概論において看護職の倫理綱領については学習していますので、再度復習しておきましょう。看護倫理は、今後、臨床現場における倫理的課題を考える際の基盤になるものです。積極的に取り組みが必要です。</p> <p>医療倫理や看護倫理に関して社会でおこる出来事やマスコミの報道に関心を持ち、人々がどのように考え、どのように対応しているか、考える機会をもちましょう。</p>